

佐賀県研究成果情報（平成20年度）

露地ナシの果実に生息する不快害虫センダンササラダニの同定と殺ダニ剤に対する感受性					
[要約] 県内の露地ナシ園で、収穫時にナシ果実に生息して問題となっている不快害虫は、センダンササラダニである。本種の殺ダニ剤に対する感受性は低い、殺虫剤のオリオン水和剤、テルスター水和剤に対する感受性は高い。					
果樹試験場・病害虫研究担当			連絡先	0952-73-2275 kajushiken@pref.saga.lg.jp	
部会名	果樹	専門	果樹虫害	対象	ナシ

[背景・ねらい]

県内の露地ナシ園で、収穫時にナシ果実にササラダニ類が生息し、本種が果実に生息したまま販売されるとクレームの対象となる、不快害虫として問題となっている。このササラダニ類の種類、生態、防除法等が不明であるため、露地ナシ園における本虫の生息状況並びに薬剤に対する感受性を把握し、防除対策の資料とする。

[成果の内容・特徴]

1. ナシ果実に生息していたササラダニ類は、センダンササラダニ *Phauloppia adjectra* Aoki et Ohkubo (滋賀県農業技術振興センター 江波氏により同定) であり、果実だけでなく、樹の枝幹の粗皮下にも多く生息している (図 1、2、3)。
2. 2008年7月30日の調査では、県内の露地豊水園の223樹のうち、センダンササラダニが生息していたのは、園中央部の6樹のみである (データ略)。
3. センダンササラダニの殺ダニ剤に対する感受性は低い、殺虫剤のうちオリオン水和剤1,000倍およびテルスター水和剤2,000倍に対する感受性は高い (表1)。
4. 現地では、センダンササラダニによるナシ果実への加害は確認していない。放飼試験でも同様に、ナシ果実への加害は認められていない。しかし、本種は果実に生息したまま販売されるとクレームの対象となる不快害虫である (データ略)。

[成果の活用面・留意点]

1. オリオン水和剤およびテルスター水和剤は、センダンササラダニに適用がないため、本種の防除を目的として使用することはできない。
2. センダンササラダニはナシ果実を加害することはない。

[ 具体的データ ]



図1 センダンササラダニ ( 体長 : 約 1 mm , 体色 : 暗褐色 )



図2 ナシ果実に群集するセンダンササラダニ 図3 ナシの粗皮下に群集するセンダンササラダニ

表1 センダンササラダニに対する各種殺ダニ剤・殺虫剤の感受性

供試薬剤	希釈倍率	供試虫数	死亡虫数	死虫率
<b>殺ダニ剤</b>				
サンマイルト水和剤	1,500倍	61 頭	18 頭	29.5%
カネマイルトフロアブル	1,000倍	66	10	15.2
ダニゲッターフロアブル	2,000倍	61	5	8.2
パロックフロアブル	2,000倍	269	5	1.9
コロマイルト水和剤	2,000倍	121	22	18.2
<b>殺虫剤</b>				
スミチオン水和剤	1,000倍	21	0	0
スカウトフロアブル	2,000倍	75	0	0
テルスター水和剤	2,000倍	68	57	83.8
オリオン水和剤	1,000倍	125	125	100.0
モスピラン水溶剤	1,000倍	169	20	11.8
ハチハチフロアブル	2,000倍	136	23	16.9
無処理	-	68	0	0

注1) 2008年7月31日にほ場で生息果を採取し、その果実に常用濃度の各薬剤を霧吹きで手散布した。

注2) 1区1果実を供試し、散布5日後(8月5日)に生死を調査した。

注3) 供試薬剤は全てセンダンササラダニに未適用。

[ その他 ]

研究課題名 : 露地ナシ園の果実に生息するセンダンササラダニ

予算区分 : 国 補 ( 農薬耐性菌検定事業 )

研究期間 : 2008年度 ( 1995年度 ~ )

研究担当者 : 近藤知弥、井手洋一、口木文孝

発表論文等 : 近藤知弥・井手洋一・口木文孝 九州病害虫研究会秋季(第76回)大会(2008年)で発表